綜 説

私どものダニ類，とくに日本産ツツガムシ類，
コナダニ類に関する研究*

佐 々 学

東京大学医科学研究所寄生虫研究部（東京都港区白金台）

（受領：1973年6月7日）

A review of our studies in taxonomy and ecology of
trombiculid and acaroid mites of Japan

Manabu SASA

*Department of Parasitology, Institute of Medical
Science, University of Tokyo, Minato-ku, Tokyo*

このたび表記のような課題で衛生動物学会賞をいただくことになったので，この機会に私共のダニ類に関する研究のあらましをまとめることとした．そもそも，私がダニ類の研索に手をそめたきっかけは，1946年9月に静岡県清水市の竹内孝雄医師が肝硬変患者の尿，腹水，胆汁などの検体中にダニを見出してその同定を依頼されたことに発している．

文献の乏しかった当時，浅沼靖氏などから御援助をいただいてこれらのダニ類をしらべたところ，おどろいたことにシラミダニ，ホコリダニ，コナダニなどに属する8種類もがふくまれていた．その後東大物療内科の斉藤泰弘医師が喘息様の症状を示す患者の喀痰に見出されたダニの検索を求められたが，これは当時の文献では該当する属名さえ見出されず，*Visceroptes saitoi* と名づけたが，後にこれがいま問題となっている *Dermatophagoides* 属のものであることを知った．この両例についての報告は文献¹⁾に記述した．

この研究で私は日本におけるダニ学の文献が乏しいことを痛感したので，たまたま1948年8月から約1年，アメリカに留学をした機会に大学の図書館でダニ類の文献を漁り，またワシントンの国立図書館に E. W. Baker 博士をたずね，1月あまりその研究室に滞在してダニ学の勉強をさせてもらった．

この留学直前の1948年7月，私は加納六郎氏と八丈小島のいわゆる「バク病」の調査にでかけた．それが後に

日本では新発見のマレー糸状虫によるフィラリア病と分かったが，この旅行でこのあたりの人々がアカムシとよぶ小虫を畑で作業中の婦人の臍の孔から8匹ほじり出した．留学からかえって，この虫が日本未記録の恙虫の1種，*Trombicula wichmanni* であることを報告した²⁾．

そのあと，富士山麓で演習をしていた米軍兵士に恙虫病が集団発生して，そこに *T. fuji* という新種をふくむ多種類のツツガムシが見出されたという観察が Kuwata ら (1950) により報告された．そのころ私たちも冬の八丈島に *T. scutellaris*, *T. burnsi* (新種) などがおびただしく発生していること³⁾，さらに，まことにおどろいたことに，東京都内の白金自然園にアカネズミがいて，*T. fuji* がそれに寄生していたこと⁴⁾などを見つけて，どうやらツツガムシ類は昔から恙虫病の流行地として知られていた北日本の河川ぞいの草原以外にもひろく分布しているのではないかと考えるようになった．

それから2，3年間，私共は関東，東北，北海道，四国，九州と，機会あるごとに鼠捕りをついで山林や草原を歩き，野鼠に寄生するツツガムシの採集に心掛けた．新しい土地をしらべるたびに，新しい種類のツツガムシが見つかるといった実り多い時期がつづいた．しかも，大部分の土地で，夏は虫が少ないか，全くとれないのに，秋から春にかけては野鼠をみれば必ずツツガムシが寄生しているという現実気がついた．そこで，秋田の有毒地，その近くの山林，富士山麓，箱根，房総，八丈島などで，多くの方々の協力をえて，毎月1回の捕鼠を1年あまりつづけて，その季節消長をみるという仕事

* 学会賞受賞記念論文

をはじめた。その成績は⁹⁶⁾¹¹⁹⁾¹³⁶⁾¹³⁹⁾¹⁴¹⁾などの報告にまとめられている。戦前には日本では北日本の恙虫病有毒地から5種（命名されていないものを加えると7種）のツツガムシが記録されていたにすぎなかった。今日では日本から100種近くが見出されているが、このうち私たちが日本各地から発見したツツガムシ科のダニは32の新種をふくむ41種に達した。その大部分が秋から春にかけ幼虫が発生するもので、アカツツガムシのように夏に幼虫が発生するのはむしろ例外という事実も分かった。

さて、ツツガムシの分布調査がすすむにつれ、新しい恙虫病流行地が発見されてきた。富士山麓（Kuwataら, 1950）、鶴見（福住・小畑, 1950）に次いで、佐々・川島²¹⁾は高知県の海岸に夏型の恙虫病の発生と、*T. tosa*の発見を報告した。その後、伊豆諸島に冬に多発する発疹性の疾患が我々をふくむ七島熱研究班の協同で新型の恙虫病と決定され、*T. scutellaris*がその媒介者と目されるにいたった⁴⁴⁾。恙虫病は夏に発生し、致死率が高い病気であるという従来の概念を打破して、冬に発生し、致死率の低い型もあるということ、しかも患者数が伊豆諸島だけでも年間数百人におよぶという意外な事実が明らかにされた。

ツツガムシの発育史の研究に関しては、佐々・三浦・寺邑¹⁷⁾が *T. akamushi* の若虫、成虫にアカイエカの卵をあたえて産卵させ、幼虫を孵化させて、実験室内で全発育環を観察することにはじめて成功し、その後多くの種類について若虫、成虫、ないし卵まで発育させ、その形態の記載をおこなった⁸⁵⁾¹²³⁾¹³⁵⁾¹³⁷⁾¹³⁸⁾¹⁵⁰⁾¹⁵²⁾。

八丈島の七島型恙虫病の研究進展にともなって、ツツガムシ未吸着幼虫の生理、生態に関する思いがけない性質が見出されてきた。この島に開業しておられた上野庸治医師が山林のタテツツガムシの調査をすすめているうち、その未吸着幼虫が人が近づくと岩の突端にたくさん現れてくることを見つけたのに端を発して、野外におけるツツガムシの生態解明のいとぐちがついた¹¹⁵⁾。それらの虫を研究室内にもちこみ、岩の代りに石膏と炭末で固めた円錐の上に放すと、頂上近くの日陰側に集落を形成し静止するという性質が見出された¹¹⁶⁾。さらに、静止した虫に人の呼気を送りこむと直ちに活動をはじめること、それが呼気中の炭酸ガスの特異的な刺激作用によるものであることが発見された¹¹⁷⁾。

このふしぎな現象はさらにいろいろな外部寄生虫類にも共通することがその後の研究で明らかになった。タテツツガムシだけでなく、アカツツガムシにも同様な集落形成性、炭酸ガス感受性がある¹²⁵⁾。トリタマツツガムシ

属の鳥寄生性の幼虫も八丈の海岸の岩頭にて、炭酸ガスにより活動を開始するが、それらは集落を作らず、かつ鳥に特異的に誘引される¹⁵⁰⁾¹⁵⁹⁾。空腹のイエダニも炭酸ガスで動き出す¹⁵³⁾。

さらにこれらのダニ類のみならず、ノミ類¹⁵¹⁾、鉤虫等の寄生線虫の感染幼虫に対しても炭酸ガスは起動作用をもつ¹⁸³⁾ことなどが次々に明らかにされた¹⁵⁵⁾¹⁶⁵⁾。蚊に対してはドライアイスが誘引作用があることをヤブカで証明し¹⁹²⁾、蚊帳と併用してコガタアカイエカなどを大量に捕集できることも示された¹⁹⁴⁾。

コナダニ類、ホコリダニ類、ツメダニ類に関する研究も1947年から今日まで細く長くつづけられている。私自身が医師の方々から依頼された検査材料についてしらべた結果と、それまで発表された100あまりの、いわゆる人体内ダニ症の報告を整理してみると、尿、痰、大便などの人体材料に見出されたという種類の大部分は自由生活性のホコリダニ類、コナダニ類などであって、人体固有の寄生虫と考えられるものはないことが分かった²⁹⁾³⁰⁾。これと平行して食品、薬品などに発生するコナダニ類の分類、分布の研究がすすめられた⁶⁰⁾¹⁰⁹⁾¹¹⁰⁾。それにとともに、いくつかの新種の記載もおこなわれた⁸⁶⁾⁶²⁾¹¹⁰⁾。

コナダニ類の実験室内飼育と繁殖条件についても研究がおこなわれ、適当な飼料と、環境の湿度条件を調節することにより、いろいろ種類を大量培養することができるようになった¹⁴³⁾¹⁴⁴⁾¹⁶⁷⁾¹⁶⁹⁾¹⁷⁰⁾¹⁷³⁾¹⁷⁵⁾。ケナガコナダニの個別観察による発育史の解明もおこなわれた¹⁶⁷⁾。また飼料中からコナダニ類を飽和食塩水浮游法で生きたままほぼ純粋に分離できる方法が開発された¹⁶⁴⁾¹⁶⁸⁾。

ヒョウヒダニ類 *Dermatophagoides* については、私たちがいろいろな疾患の患者の尿、痰などからしばしば発見し、その再記載や新種の報告などをおこなってきた¹³⁹⁾¹⁰⁾³²⁾³⁴⁾。しかし、この類のダニが果して人体の寄生虫か、自活性のものか、長く不明であったところ、その1種が薬品のタンナルビンに繁殖していることが見出された¹⁵⁸⁾。近年になって、オランダなどの学者と、横浜衛研の大島司郎氏らが独立にこの類のダニが屋内の埃に大量に繁殖しており、さらに宮本昭正氏らによりそれらが人の気管支喘息のアレルゲンとして重要な役割をもっているらしいことが発見された¹⁸⁷⁾。たまたま、その1種が飼料工場の埃に大量に発生していたことから、私たちは実験動物用の飼料粉末を飼料として大量培養することに成功し、さらにそのダニを飽和食塩水浮游法などで分離することができた¹⁸⁹⁾。さらに、これらのダニを材料とした実験アレルギー研究、診断治療用抗原の試作

などがいますめられている。

ダニ類の分類や生態に関しては以上に紹介したほかいくつかの研究がおこなわれた。とくに *Pygmephorus* という属の分類¹⁶⁶⁾、ツツガムシ幼虫の脚の剛毛式の分類¹⁵⁷⁾は基礎研究として印象深いものであった。近年走査電子顕微鏡を用いてダニ類や蚊の外部形態の観察をおこなったが、この方法はこの分野の分類学や形態学に革命的な進歩をもたらすと予想される¹⁹⁰⁾¹⁹¹⁾。

なお、ダニ類に関しては、「人体内ダニ症」(1951, 医学書院, 79pp. 29), 「コナダニ類」(1954, 医学書院, 168pp. 110), 「恙虫と恙虫病」(1956, 医学書院, 497 pp. 136), 「ダニ類」(1965, 東大出版会, 486pp. 180)の著書が刊行され、上述の研究のあらましはこれらにも紹介されている。

伝研, 医科研寄生虫研究部 ダニ類研究論文リスト

このリストは発表年代とその年代の当研究部論文番号の順に従っている。各文献末の<>内番号は、「東京大学医科学研究所寄生虫研究部研究業績目録」に使われている番号である。

1. 佐々学(1947): 人体内ダニ寄生症に関する新発見. 日新医学, **34**(3): 167-170. <47-01>
2. 佐々学, 加納六郎(1950): ツツガムシの研究(1). *Trombicula wichmanni* の日本における発見. 東京医事新誌, **67**(4): 9-10. <50-06>
3. 佐々学, 寺邑誠祐, 加納六郎(1950): ツツガムシの研究(2). 八丈島地方のツツガムシについて. 東京医事新誌, **67**(10): 22-23. <50-07>
4. 佐々学, 寺邑誠祐, 三浦昭子(1950): ツツガムシの研究(3). 東京の旧市内に見出したツツガムシについて. 東京医事新誌, **67**(10): 24. <50-08>
5. 佐々学, 林滋生, 熊田信夫, 寺邑誠祐(1950): 恙虫の研究(4). 富士山麓の恙虫について. 東京医事新誌, **67**(11): 17-18. <50-09>
6. 佐々学, 林滋生, 佐藤孝慈, 三浦昭子, 朝比奈正二郎(1950): 恙虫の研究(5). 再び富士山麓の恙虫について. 東京医事新誌, **67**(12): 14. <50-10>
7. 佐々学(1950): 恙虫の研究(31). 恙虫病の研究(媒介者編). 日本医事新報, **1390**: 39-42. <50-11>
8. 佐々学(1950): 1864年にロシアで人体から見出された *Dermatophagoides* 属のダニの人体内寄生症よりの再発見. 日新医学, **37**(8): 350-358. <50-12>
9. 佐々学, 齊藤泰弘(1950): 1864年にロシアで人体から見出された *Dermatophagoiaes* 属のダニ

- の人体内ダニ寄生症よりの発見. 総合医学, **7**(7): 18, 伝研集談会(1950.1.26). <50-13>
10. Sasa, M. (1950): Mites of the genus *Dermatophagoides* Bogdanoff, 1864 found from three cases of Acariasis. *Jap. J. Exp. Med.*, **20**: 519-525. <50-14>
  11. 浅沼靖, 加納六郎, 林滋生(1950): イエダニの近似種 *Liponyssus sylviarum* の日本における発見. 衛生動物, **1**(1): 16-17. <50-15>
  12. 佐々学, 林滋生, 熊田信夫, 三浦昭子(1951): 恙虫の研究(6). 日本産恙虫の一新種 *Trombicula tenjin*, n. sp. について. 東京医事新誌, **68**(3): 17-18. <51-01>
  13. 佐々学, 沢田利貞, 加納六郎, 林滋生, 熊田信夫(1951): 恙虫の研究(7). 群馬県下で見出した恙虫の二新種. 東京医事新誌, **68**(4): 7-8. <51-02>
  14. 佐々学, 寺邑誠祐(1951): 恙虫の研究(8). 日本に未記録の *Walchia* 属恙虫の一新種について. 東京医事新誌, **68**(5): 10. <51-03>
  15. 佐々学, 熊田信夫, 林滋生, 榎本義文, 福住定吉, 小畑義男(1951): 恙虫の研究(9). 恙虫の一新種 *Trombicula himizu*, n. sp. について. 衛生動物, **2**(1): 1-5. <51-04>
  16. 佐々学(1951): 恙虫の研究(10). ツツガムシ I. II. III. 自然, 1951, 3, 4, 5号<51-05>
  17. 佐々学, 三浦昭子, 寺邑誠祐(1951): 恙虫の研究(11). *Trombicula akamushi* のガラス器内飼育の成功. 東京医事新誌, **68**(7): 13. <51-06>
  18. 佐々学, 熊田信夫, 三浦昭子(1951): 恙虫の研究(12). *Euschöngastia* 属恙虫の一新種. 東京医事新誌, **68**(8): 19. <51-07>
  19. 佐々学, 熊田信夫, 寺邑誠祐(1951): 恙虫の研究(13). 新潟県と秋田県で多数に見出された恙虫の一新種. 東京医事新誌, **68**(9): 8-9. <51-08>
  20. 佐々学, 加納六郎, 熊田信夫, 上田明一(1951): 恙虫の研究(14). 北海道に於ける恙虫の存在. 東京医事新誌, **68**(9): 9. <51-09>
  21. 佐々学, 川島文夫(1951): 恙虫の研究(15). 高知県に見出した恙虫の一新種. 東京医事新誌, **68**(10): 9-10. <51-10>
  22. 鈴木猛, 寺邑誠祐, 佐々学(1951): 恙虫の研究(16). 恙虫幼虫に対する各種殺虫剤の効力の基礎的研究. 東京医事新誌, **68**(12): 13-14. <51-11>
  23. 佐々学, 川島文夫(1951): 恙虫の研究(17). 更に高知県に見出された恙虫の二新種. 東京医事新誌, **68**(12): 15-17. <51-12>
  24. 佐々学, 林滋生, 佐藤孝慈(1951): 八丈島の恙虫について. 臨床, **4**(3): 99, 伝研集談会(1950.11.30). <51-13>
  25. 佐々学, 林滋生, 熊田信夫, 三浦昭子(1951): 日本産恙虫の新種. 臨床, **4**(3): 99, 伝研集談会(1950.11.30). <51-14>
  26. 三浦昭子, 佐々学(1951): 恙虫 *Trombicula*

- akamushi* の実験室内完全飼育の成功. 臨床, 4(6) : 25, 伝研集談会(1951.2.22). <51-15>
27. 佐々学, 熊田信夫, 三浦昭子(1951) : 箱根山麓で見出した *Neoschöngastia* 属の一新種(抄録). 臨床, 4(7) : 92, 伝研集談会(1951.3.22). <51-16>
  28. 佐々学, 熊田信夫, 三浦昭子(1951) : 上信越山岳地の恙虫とその新種(抄録). 臨床, 4(8) : 88, 伝研集談会(1951.4.26). <51-17>
  29. 佐々学(1951) : 人体内ダニ症. 79pp., 医家叢書, 医学書院, 東京. <51-18>
  30. 佐々学(1951) : コナダニ類の医学的意義, 特に人体内ダニ症について. 衛生動物学会特別講演, 1951.4. <51-19>
  31. 佐々学(1951) : 小児科に関係深い 2, 3 の昆虫, ダニ類について. 小児科臨床, 4(10) : 11-15. <51-20>
  32. 佐々学(1951) : 人体ダニ症の研究(第3報). *Dermatophagoides scheremetewskyi* Bogdanoff 1864の再発見. 臨床, 4(7) : 91-92, 伝研集談会(1950.3.20). <51-21>
  33. 佐々学(1951) : 人体に寄生するダニの種類. 日本医事新報, 1397 : 49. <51-22>
  34. Sasa, M. (1951) : Further note on mites of the genus *Dermatophagoides* Bogdanoff found from human Acariasis (Acarina, Epidermoptidae). *Jap. J. Exp. Med.*, 21 : 199-203. <51-23>
  35. Sasa, M. and R. Kano (1951) : *Cheyletiella takahashii*, n. sp., a new species of parasitic mite from ochotona of Hokkai-do, Japan (Acarina, Cheyletidae). *Jap. J. Exp. Med.*, 21 : 205-207. <51-25>
  36. Sasa, M. and K. Asanuma (1951) : A new food infesting acarid mite, *Hoshika dania konoï* n. g., n. sp., with notes on the comparative morphology of its different sexes and stages. *Jap. J. Exp. Med.*, 21 : 209-222. <51-26>
  37. 佐々学, 加納六郎, 林滋生, 三浦昭子, 木村マリ(1951) : 東京の鼠の種類並びに 2, 3 外部寄生虫について. 衛生動物, 2(1) : 32-33. <51-53>
  38. 佐々学(1951) : 恙虫病の疫学における最近の知見. 公衆衛生, 10(2) : 54-56. <51-54>
  39. 佐々学, 川島文夫, 広松靖一郎(1952) : 恙虫の研究(18). 高知県のモグラより見出された恙虫の一新種. 東京医事新誌, 69(1) : 43. <52-01>
  40. 川島文夫, 佐々学(1952) : 恙虫の研究(19), 新しく四国から見出された恙虫について. 東京医事新誌, 69(2) : 21. <52-02>
  41. 佐々学, 林滋生, 川島文夫, 光富慎吾, 江頭正義(1952) : 恙虫の研究(20). 九州と四国のヒミズモグラに見出した恙虫の二新種. 東京医事新誌, 69(3) : 11-13. <52-03>
  42. 光富慎吾, 佐々学, 林滋生, 江頭正義, 小林和夫, 北原経太(1952) : 恙虫の研究(21). 九州山岳地の恙虫について. 東京医事新誌, 69(4) : 18. <52-04>
  43. 鈴木猛, 寺邑誠祐, 佐々学(1952) : 恙虫の研究(22). 恙虫幼虫に対する各種忌避剤の効果について. 東京医事新誌, 69(3) : 21-22. <52-05>
  44. 佐々学, 加納六郎, 林滋生, 熊田信夫, 三浦昭子, 佐藤孝慈, 浅沼靖(1952) : 恙虫の研究(23). 七島熱の研究, 衛生動物編. 七島熱の調査研究, I 東京都. <52-06>
  45. 佐々学, 熊田信夫, 三浦昭子(1952) : 恙虫の研究(24). 三重県の泉熱流行地水源地附近の野鼠と恙虫について. 東京医事新誌, 69(5) : 23. <52-07>
  46. 佐々学, 川島文夫, 江頭正義(1952) : 恙虫の研究(25). 西日本に見出された恙虫の一新亜属の *Trombicula* (*Miyatrombicula*) *kochiensis* n. subg., n. sp. について. 東京医事新誌, 69(6) : 5-6. <52-08>
  47. 佐々学, 熊田信夫, 三浦昭子, 鈴木猛, 三浦栄太郎(1952) : 恙虫の研究(27). 近畿, 中国地方で採集した恙虫に就て. 東京医事新誌, 69(9) : 11. <52-09>
  48. 佐々学, 加納六郎, 緒方隆幸(1952) : 恙虫の研究(28). 東京近郊の鳥に見出された恙虫について. 東京医事新誌, 69(10) : 13-15. <52-10>
  49. 佐々学, 熊田信夫(1952) : 恙虫の研究(29). 奥羽地方の山林の恙虫について. 東京医事新誌, 69(12) : 5-7. <52-11>
  50. 佐々学(1952) : 恙虫の研究(35). 日本産 *Neotrombicula* 亜属の知見補遺, 衛生動物, 3(3・4) : 80-84. <52-12>
  51. 三浦昭子, 佐々学(1952) : 日本産恙虫の飼育による発育史の研究. 衛生動物, 3(3・4) : 129. <52-13>
  52. 佐々学, 川島文夫(1952) : 高知県の恙虫病及び恙虫について. 衛生動物, 3(3・4) : 130. <52-14>
  53. 佐々学, 林滋生, 加納六郎, 熊田信夫(1952) : 伊豆諸島の恙虫及びその七島熱との関係についての疫学的考察. 衛生動物, 3(3・4) : 133. <52-15>
  54. 佐々学(1952) : 日本産恙虫の分類, 分布, ならびに疫学的考察. 衛生動物, 3(3・4) : 134. <52-16>
  55. 川村明義, 鈴木潔, 織田昭, 岩崎隆, 佐々学, 中屋逸郎, 大原良清, 川島文夫, 川島豊作(1952) : 高知県下の恙虫病の研究(第1報). 有毒地の野鼠より分離した病原体について. 東京医事新誌, 69(9) : 7-10. <52-17>
  56. 林滋生(1952) : 富土地方の恙虫について. 衛生動物, 3(1・2) : 49. <52-18>
  57. 佐々学(1952) : 恙虫ニュース 1(1) : 15pp.(1952.7.1). <52-19>
  58. 飯田鈴吉(1952) : 食糧倉庫に於けるコナダニ類の大量発生例について. 公衆衛生, 13(5) : 47-49. <52-20>
  59. 佐々学(1952) : ダニについて. 日本臨床, 10

- (11) : 1-7. <52-21>
60. 佐々学, 浅沼靖, 三浦昭子(1952) : 食品衛生害虫としてのコナダニ類(その1). 食品衛生研究, **2**(5) : 5-13. <52-22>
  61. Kumada, N., M. Sasa, A. Miura and K. Niishioka (1952) : Studies on Izumi fever-3. Notes on the field mice and their external parasites collected around the fountainheads in the endemic area of Izumi fever. *Jap. J. Exp. Med.*, **22** : 353-355. <52-23>
  62. Sasa, M. (1952) : Two new Acaroid (Tyroglyphoid) mites of possible sanitary or economic importance in Japan. *Jap. J. Exp. Med.*, **22** : 511-521. <52-29>
  63. 佐々学(1953) : 恙虫の研究(26). 日本産恙虫の分類, 生態並に疫学における最近の知見. 日本細菌学会雑誌, **8**(2) : 139-149. <53-01>
  64. 佐々学, 佐藤孝慈(1953) : 恙虫の研究(30). 下北半島に見出された恙虫について. 東京医事新誌, **70**(3) : 143-145. <53-02>
  65. 佐々学, 林滋生, 川島源蔵(1953) : 恙虫の研究(32). 新に八丈地方の鳥類に見出された恙虫について. 東京医事新誌, **70**(4) : 203-205. <53-03>
  66. 佐々学(1953) : 恙虫の研究(33). 日本の恙虫の展望. 総合医学, **9**(13) : 770-774. <53-04>
  67. Sasa, M. and A. Miura (1953) : Studies on the life history of Tsutsugamushi (Trombiculid mites) of Japan in the laboratory (Studies on Tsutsugamushi, part 34). *Jap. J. Exp. Med.*, **23** : 171-185. <53-05>
  68. 熊田信夫, 佐々学(1953) : 恙虫の研究(36). 西日本に見出された恙虫の一新種東京医事新誌, **70**(5) : 255-256. <53-06>
  69. 佐々学, 林滋生, 徳永孝一(1953) : 恙虫の研究(37). 九州の恙虫についての新知見. 東京医事新誌, **70**(6) : 313-314. <53-07>
  70. 佐々学, 加納六郎, 林滋生, 鈴木猛, 熊田信夫, 三浦昭子, 田中寛, 宮川竜夫, 徳永孝一, 浅沼靖(1953) : 恙虫の研究(38). 神奈川県下の恙虫について. 神奈川衛研, 1952年報告, 衛研年報報文18号 : 1-11. <53-08>
  71. 林滋生, 加納六郎, 寺邑誠祐, 三浦昭子, 佐藤孝慈, 三浦栄太郎, 浅沼靖, 佐々学(1953) : 恙虫の研究(39). 山梨県及びその周辺における恙虫について. 山梨県衛生民生部, 山梨県医学研究所報告, 1953年 : 30-38. <53-09>
  72. 佐々学, 林滋生, 寺邑誠祐, 徳永孝一, 三浦昭子, 鈴木猛(1953) : 恙虫の研究(40). 静岡県 of 恙虫について. 静岡県衛生研究所年報, **3** : 11-14. <53-10>
  73. 浅沼靖, 佐々学, 林滋生, 熊田信夫, 三浦昭子, 関川嘉代子(1953) : 恙虫の研究(41). 千葉県下の恙虫病調査研究(I). 千葉県の恙虫類について, 千葉県衛生研究所報告, 1953年, **1** : 8-10. <53-11>
  74. 佐々学, 浅沼靖, 林滋生, 鈴木猛, 三浦昭子, 加納六郎, 熊田信夫(1953) : 恙虫の研究(42). 伊豆諸島における最近の恙虫研究成果について. 七島熱の研究, **II** : 59-64. 東京都. <53-12>
  75. 佐々学, 小峰績, 川村明義, 三浦昭子, 林滋生, 鈴木猛, 田中寛(1953) : 恙虫の研究(43). 八丈産タテツツガムシ *Trombicula scutellaris* の人体吸着実験. 七島熱の研究, **II** : 82-87. 東京都. <53-13>
  76. 鈴木猛, 田中寛, 金子清俊, 熊田信夫, 佐々学(1953) : 恙虫の研究(44). 八丈島, 大島の地表における恙虫の発生状況の研究. 七島熱の研究, **II** : 65-78. 東京都. <53-14>
  77. 佐々学(1953) : 恙虫の研究(45). 日本における恙虫の分布とその疫学的考察. 日本衛生学会講演要旨. <53-15>
  78. 佐々学(1953) : 恙虫の研究(46). 恙虫病群疾患について. 日本医事新報, **1525** : 71-75. <53-16>
  79. 佐々学(1953) : 恙虫の研究(47). 日本産 *Neoschöngastia* 属について. 応用動物学雑誌, **18**(1・2) : 7-16. <53-17>
  80. 佐々学(1953) : 恙虫の研究(48). 恙虫病群疾患の疫学. 日本伝染病学会雑誌, **27**(5) : 24-36. <53-18>
  81. 佐々学(1953) : 恙虫の研究(49). ツツガムシの生態. 科学, **23**(7) : 356-361. <53-19>
  82. Jemeson, E. W. and M. Sasa (1953) : *Trombicula (Trombiculindus) kansai*, new chigger from central Honshu, Japan. 恙虫の研究(51). *J. Parasit.*, **39**(3) : 247-249. <53-20>
  83. 佐々学, 浅沼靖, 加納六郎, 緒方一喜, 三浦昭子, 常松之典, 川村明義(1953) : 恙虫の研究(52). 北海道産恙虫の研究. 北海道衛生部環境衛生課, 環境衛生に関する報告書, **6** : 1-6. <53-21>
  84. Sasa, M. and K. Ogata (1953) : Studies on Tsutsugamushi, Part 53. A new species of the subgenus *Miyatrombicula* with notes on the trombiculid mites of Hokkaido. *Jap. J. Exp. Med.*, **23** : 333-346. <53-22>
  85. Sasa, M. (1953) : Description of nymphs and adults of Japanese trombiculid mites reared in the laboratory. 恙虫の研究(54). *Jap. J. Exp. Med.*, **23** : 407-450. <53-23>
  86. 佐々学, 竹岡英二(1953) : 広島県のツツガ虫について. 広島地方の恙虫の研究(第1報). 恙虫の研究(56). 衛生動物, **4**(3・4) : 97-100. <53-24>
  87. Suzuki, T. (1953) : Studies on the bionomics and chemical control of Tsutsugamushi (Scrubtyphus mites) Part I. *Trombicula akamushi* (Brumpt) in northwestern Honshu, Japan. *Jap. J. Exp. Med.*, **23**(6) : 487-516. <53-25>
  88. 佐々学(1953) : 恙虫ニュース, **1**(2) : 6. <53-26>
  89. 佐々学(1953) : 恙虫ニュース**1**, (3) : 14. <53-

- 27>
90. 佐々学(1953) : 恙虫ニュース, 2(1) : 7. <53-28>
  91. 林滋生(1953) : 恙虫の分布と冬期恙虫病の発生との関連に関する疫学的研究. 衛生動物, 4(1・2) : 18. <53-29>
  92. 佐々学(1953) : 疫学的見地からみた鼠類特に恙虫類との宿主関係についての考察. 3p. <53-53>
  93. 佐々学(1954) : 恙虫(種類と分布)恙虫の研究50. 三坂和英編, 野鼠とその防除. 学術振興会, 東京, 156-208. <54-01>
  94. Sasa, M. (1954) : *Trombicula scutellaris* Nagayo et al. and its relationship to the winter scrub-typhus of Japan, together with systematic accounts for the four species of Tsutsugamushi described by Nagayo and others. Studies on Tsutsugamushi, Part, 55. 衛生動物, 小林晴治郎記念号, 4 : 233-251. <54-02>
  95. 佐々学(1954) : 恙虫の研究(59). 日本産恙虫の検索法. 東京医事新誌, 71(7) : 21-24, 71(8) : 21-25. <54-03>
  96. 寺邑誠祐(1954) : 恙虫の研究(60). 秋田県下の恙虫及び恙虫病の研究. 衛生動物, 5(1・2) : 26-41. <54-04>
  97. Sasa, M. and E. W. Jameson (1954) : The trombiculid mites of Japan. *Proceed. Calif. Acad. Sci.*, 28(5) : 247-321. <54-05>
  98. Suzuki, T. (1954) : Studies on the bionomics and chemical control of Tsutsugamushi (scrub-typhus mites) Part II. *Trombicula scutellaris* Nagayo et al. in southern Kanto of Japan. 恙虫の研究(63). *Jap. J. Exp. Med.*, 24(4) : 181-197. <54-06>
  99. 林滋生, 鈴木猛(1954) : 恙虫の生態に関する研究(II). *Trombicula scutellaris* Nagayo et al., 1921の地表分布について. 恙虫の研究(64). 衛生動物, 5(3・4) : 93-100. <54-07>
  100. 田中寛(1954) : 日本産アカツツガムシ(アカムシ) *Trombicula akamushi* (Brumpt 1910)の胴背部剛毛式の研究. 恙虫の研究(65). 衛生動物, 5(3・4) : 81-85. <54-08>
  101. 佐々学(1954) : 七島型恙虫病 (*scutellaris* 型) 恙虫病の比較疫学. 恙虫の研究(66). 七島熱の研究, III : 45-52, 東京都. <54-09>
  102. 林滋生, 田中寛(1954) : タテツツガムシ *Trombicula scutellaris* Nagayo et al. の人体吸着性. 恙虫の研究(67). 七島熱の研究, III : 52-53, 東京都. <54-10>
  103. 鈴木猛, 林滋生, 遠山輝彦, 田中寛, 緒方一喜(1954) : 薬剤による *Trombicula scutellaris* 幼虫防除の研究. 恙虫の研究(69). 七島熱の研究, III : 75-81, 東京都, <54-11>
  104. 鈴木猛, 林滋生, 緒方一喜, 田中寛, 佐々学(1954) : 恙虫の生態に関する研究(III) *Trombicula scutellaris* Nagayo et al. 未吸着幼虫の行動及び日週活動について. 恙虫の研究(70). 七島熱の研究, III : 53-60, 東京都. <54-12>
  105. 林滋生, 鈴木猛, 田中寛, 寺邑誠祐, 上野庸治, 佐々学(1954) : タテツツガムシ, ナンヨウツツガムシ及びアカツツガムシの未吸着幼虫の地表分布について. 恙虫の研究(71). 恙虫の生態に関する研究(IV). 七島熱の研究, III : 61-74. 東京都. <54-13>
  106. 小田島博, 田中寛, 金子清俊(1954) : 福島県の恙虫調査(第1報). 恙虫の研究(80). 福島医事新誌, 4(5) : 267-270. <54-14>
  107. 田中寛(1954) : 日本産ツメダニ科 Cheyletidae 7種について. 衛生動物, 4(3・4) : 72-80. <54-15>
  108. 佐々学(1954) : 食品衛生におけるコナダニ類の問題. 公衆衛生, 16(3) : 49-52. <54-16>
  109. 佐々学, 三浦昭子(1954) : 食品衛生害虫としてのコナダニ類. 食品衛生研究(その2), 4(7) : 17-20, (その3), 4(8) : 31-38, (その4), 4(9) : 49-58. <54-17>
  110. 佐々学(1954) : 食品害虫及び衛生害虫としてのコナダニ類. 168pp., 医家叢書, 医学書院, 東京. <54-18>
  111. Sasa, M. (1954) : Comparative epidemiology of Tsutsugamushi disease in Japan. *Jap. J. Exp. Med.*, 24 : 335-361. <54-45>
  112. 佐々学, 田中寛(1954) : 紀伊半島の恙虫調査. 和歌山県衛生研究所年報, 1-4. <54-47>
  113. 鈴木猛, 林滋生, 寺邑誠祐(1955) : 恙虫の生態に関する研究(I). ペークライトプレートによる恙虫未吸着幼虫の採集法. 恙虫の研究(62). 東京医事新誌, 72(2) : 93-94. <55-01>
  114. 佐々学(1955) : 恙虫病の疫学, 恙虫の研究(72). 第14回日本医学会総会特別講演集, 243-250. <55-02>
  115. 上野庸治, 田中寛, 佐々学(1955) : 八丈島におけるタテツツガムシ幼虫の集団出現性とその寄生機序についての新知見. 恙虫の研究(73). 衛生動物, 6(2) : 133-134. <55-03>
  116. 佐々学, 三浦昭子, 田中寛, 上野庸治(1955) : タテツツガムシ幼虫の集落形成機序について. 恙虫の研究(74). 衛生動物, 6(2) : 135-136. <55-04>
  117. 田中寛, 佐々学, 上野庸治(1955) : タテツツガムシ未吸着幼虫の呼気中炭酸ガスによる興奮現象. 恙虫の研究(75). 衛生動物, 6(2) : 137-140. <55-05>
  118. Sasa, M. (1955) : Comparative epidemiology of Tsutsugamushi Disease. 恙虫の研究(76). *Jap. J. Exp. Med.* 24 : 335-361. <55-60>
  119. 鈴木武夫, 七山悠三, 佐々学, 田中寛, 林滋生, 鈴木猛, 若杉幹太郎, 三浦昭子, 緒方一喜(1955) : 千葉県下の恙虫病調査研究V, 房総半島南部における恙虫の季節消長. 恙虫の研究(77). 衛生動物, 6(2) : 69-75. <55-07>
  120. 佐々学(1955) : 恙虫病の新知見. 恙虫の研究. 日本医事新報, 1623 : 44-45. <55-08>
  121. 佐々学, 林滋生, 緒方一喜, 長谷川恩, 大野

- 善右衛門, 浅沼靖, 加納六郎, 高橋弘(1955): 北海道の恙虫について. 恙虫の研究(79). 日本医事新報, **1611**: 10-14. <55-09>
122. 佐々学, 林滋生, 田中寛(1955): 日本産ツツガ虫にみられる地方的変異について. 恙虫の研究(81). 日新医学, **42**(8): 439-450. <55-10>
123. Sasa, M., F. Kunitomo and A. Miura(1955): Notes on the Tsutsugamushi, *Trombicula* (*Miyatrombicula*) *kochiensis* Sasa, Kawashima et Egashira, 1952, with description of its Nymphs (Acarina, Trombiculidae). 恙虫の研究(82). *Jap. J. Exp. Med.*, **25**(4·5): 159-165. <55-11>
124. 鈴木猛, 林滋生, 寺邑誠祐(1955): *Trombicula akamushi* (Brumpt, 1910) 未吸着幼虫の日週活動について. 恙虫の研究(84). 恙虫の生態に関する研究Ⅷ. 衛生動物, **6**(2): 94-97. <55-12>
125. 佐々学, 田中寛, 寺邑誠祐(1955): アカツツガムシ未吸着幼虫の生態に関する新知見, 特にその集落形成機構と呼気炭酸ガスによる興奮現象について. 恙虫の研究(86). 衛生動物, **6**(3·4): 166-169. <55-13>
126. Sasa, M. (1955): Epidemiology of Tsutsugamushi disease (scrub-typhus) in Japan. 恙虫の研究(87). *The XIV Japan Medical Congress*, **1**: 141-144. <55-14>
127. 佐々学(1955): 恙虫病の概念. 医学通信, **10**(441): 4-6. <55-15>
128. Hara, J. (1955): A new species of the Cheyletid mite found on tatami, Japanese rice straw matting. *Jap. J. Exp. Med.*, **25**: 69-70. <55-16>
129. Hara, J. (1955): Some notes on the habits of the tick, *Ornithodoros tholozani* (Laboulbene and Megnin) O. *papillepes* (Birula). *Jap. J. Exp. Med.*, **25**: 65-68. <55-17>
130. 原淳, 平木敬二(1955): 千葉県習志野地区の衛生害虫に関する研究. 第1報: 住家性及び野性化したネズミ属の外部寄生虫について. 順天堂医学雑誌, **1**(4): 181-184. <55-18>
131. 若杉幹太郎(1955): コントラット糸状虫 *Litomosoides carinii* に関する研究. (第1報) 実験室内に於ける累代感染法について. 寄生虫学雑誌, **4**(4): 57-61. <55-35>
132. 若杉幹太郎, 林滋生, 田中寛(1955): コントラットのフィラリア *Litomosoides carinii* の実験的感染に関する基礎的研究. 寄生虫学雑誌, **4**(2): 146. <55-36>
133. 佐々学, 緒方一喜, 長谷川恩, 大野善右衛門, 浅沼靖, 加納六郎, 高橋弘(1955): エゾ熱の研究(北海道のツツガ虫について). 日本医事新報, **1611**(2): 10-18. <55-41>
134. 田宮猛雄, 佐々学, 田中寛, 渡部浩寿, 大久保薫, 山本俊一, 渡部正(1955): 恙虫病媒介種 *Trombicula akamushi* (Brumpt, 1910) の福島県下における発見. 東京医事新誌, **72**(2): 67-68. <55-43>
135. Sasa, M. and A. Miura (1956): Notes on nymphs and adults of Tsutsugamushi of Japan, and their laboratory rearing. 恙虫の研究(83). *Jap. J. Exp. Med.*, **25**(5): 197-209. <56-01>
136. 佐々学(1956): 恙虫と恙虫病. 恙虫の研究(85). 497pp., 医学書院, 東京. <56-02>
137. Sasa, M., I. Iimuro and A. Miura (1956): Notes on the larva and nymph of a new Tsutsugamushi (*Trombiculid* mites) found from Mt. Fuji area (Leeuwenkoekiinae) Studies on Tsutsugamushi, Pt. 88. *Jap. J. Exp. Med.*, **25**: 247-254. <56-03>
138. Sasa, M. and A. Miura (1956): Description of the nymph of *Trombicula kuroshio*. Studies on Tsutsugamushi. Pt. 89. *Jap. J. Exp. Med.*, **26**(1·2): 1-8. <56-04>
139. 飯室勇, 佐々学, 雨宮義文, 若杉幹太郎, 田中寛, 三浦昭子(1956): 富士山麓における恙虫の季節的ならびに地域的分布について. 恙虫の研究(91). 衛生動物, **7**(2): 69-76. <56-05>
140. 林滋生, 田中寛(1956): *Trombicula pomranzevi* 群における変異に関する研究. 恙虫の研究(92). 日新医学, **43**(4): 217-222. <56-06>
141. 上野庸治(1956): 八丈島の恙虫と恙虫病の研究. 恙虫の研究(95). 衛生動物, **7**(3·4): 231-253. <56-07>
142. 佐々学, 田中寛(1956): 恙虫と炭酸ガスの問題. 衛生動物, **7**(3·4): 189. <56-08>
143. 飯室勇(1956): コナダニ類の研究(Ⅰ) ケナガコナダニ *Tyrophagus dimidiatus* の生態に関する研究. 衛生動物, **7**(1): 27-37. <56-11>
144. 飯室勇(1956): コナダニ類の研究(Ⅱ). サトウダニの繁殖条件について. 衛生動物, **7**(3·4): 183-189. <56-12>
145. 国友文夫(1956): 高知県下の恙虫及び恙虫病の研究(第4報). *Trombicula tosa* と *Trombicula kitasatoi* の比較研究. お茶の水医学雑誌, **4**(6): 761-763. <56-38>
146. 佐々学, 飯室勇(1957): ナガヨツツガムシ及びその近縁種の地方的変異について. (恙虫の研究93). 衛生動物, **8**(3): 135-140. <57-07>
147. 田中寛, 長田泰博, 上野庸治(1957): タテツツガムシ幼虫の数種ネズミ類に対する寄生態度の差異について. (恙虫の研究94). 衛生動物, **8**(4): 220-223. <57-12>
148. 佐々学, 真貝春男(1957): 貯蔵食品に見出されたホコリダニについて. 日本応用動物昆虫学会誌, **1**(1): 1-7. <57-17>
149. Sasa, M., H. Tanaka, Y. Ueno and A. Miura (1957): Notes on the bionomics of unengorged larvae of *Trombicula scutellaris* and *Trombicula akamushi* with special references to the mechanisms of cluster for-

- mation and reaction to carbon dioxide expired by the hosts. (Studies on Tsutsugamushi, part 90). *Jap. J. Exp. Med.*, **27**(1·2) : 31-43. <57-24>
150. Sasa, M., Y. Ueno, A. Miura and H. Tanaka (1957) : Notes on the bionomics of *Neoshöngastia* spp. and *Trombicula hasegawai*, the summer Tsutsugamushi at Hachijo islands, together with descriptions of their post-larval stages. (Studies on Tsutsugamushi, Part 96). *Jap. J. Exp. Med.*, **27**(4) : 217-234. <57-26>
151. Sasa, M. (1957) : Notes on the effect of carbon dioxide in the breath as the stimulant of the flea, *Ctenocephalides canis* (Curtis, 1826). *Jap. J. Exp. Med.*, **27**(6) : 401-410. <57-27>
152. Sasa, M., I. Iimuro and A. Miura (1957) : Descriptions of the nymph and adult of *Trombicula nagayoi* Sasa et al., 1950, and the taxonomic and ecological notes with the related species. (Studies on Tsutsugamushi, Part 97) *Jap. J. Exp. Med.* **27**(5) : 259-272. <57-28>
153. Sasa, M. and M. Wakasugi (1957) : Studies on the effect of carbon dioxide as the stimulant on the tropical rat mite, *Bdellonyssus bacoti* (Hirst, 1913). *Jap. J. Exp. Med.*, **27**(4) : 207-215. <57-29>
154. 福井正信(1958) : 拡張条虫の中間宿主なるササラダニ類に関する観察. 衛生動物, **9**(1) : 59-63. <58-04>
155. 佐々学(1958) : ある種の寄生昆虫, ダニ類に見出された炭酸ガス感知性とその意義について. 日仏生物学会誌, **6**(7) : 235-247. <58-40>
156. 佐々学(1958) : 肺ダニ症. 第5回国際胸部医学会議, 254-255. <58-41>
157. Sasa, M. (1958) : Comparative studies on the leg chaetotaxy of larval Trombiculid mites of Japan. (Studies on Tsutsugamushi, Part 101). *Jap. J. Exp. Med.*, **28**(1) : 11-34. <58-44>
158. Sasa, M. and H. Shingai (1958) : Occurrence of the mite *Dermatophagoides schereffskyi* Bogdanoff, free-living in albumine tanate stored in dispensaries. *Jap. J. Exp. Med.*, **28**(1) : 1-10. <58-45>
159. Sasa, M. and Y. Osada (1958) : Additional observations on the appearance of some bird-parasitic Trombiculid mites on the rockhead by the effect of breath. (Studies on Tsutsugamushi, Part 102). *Jap. J. Exp. Med.*, **28**(4) : 289-291. <58-46>
160. 佐々学, 上野庸治, 田中寛, 三浦昭子, 林滋生, 鈴木猛, 田中英文 (1958) : 八丈地方における夏型恙虫類の生態に関する研究. (恙虫の研究98). 東京都, 七島熱の研究, 93-101. <58-52>
161. 鈴木猛, 佐々学, 田中寛, 林滋生, 上野庸治 (1958) : ベークライト板で採集された恙虫の種類とその意義について. (恙虫の研究99). 東京都, 七島熱の研究, 102-106. <58-53>
162. 佐々学(1958) : 伊豆諸島の恙虫概説. (恙虫の研究100). 東京都, 七島熱の研究, 107-115. <58-54>
163. 福井正信, 長田泰博, 黒佐和義, 田中英文 (1959) : 薬品中のコナダニ及び昆虫に関する調査研究. 衛生動物, **10**(3) : 169-172. <59-07>
164. 佐々学, 松本克彦, 三浦昭子, 武田植人(1961) : 食品や薬品に繁殖するコナダニ類の飽和食塩水浮游法による検出. 食品衛生研究, 1-3. <61-13>
165. Sasa, M. (1961) : Biology of Chiggers. *Ann. Rev. of Entomol.*, **6** : 221-244. <61-14>
166. Sasa, M. (1961) : New mites of the genus *Pygmephorus* from smallmammals in Japan. *Jap. J. Exp. Med.*, **31**(3) : 191-208. <61-15>
167. Miura, A and M. Sasa (1961) : Observations on the life cycle of the common grain mite, *Tyrophagus dimidiatus* (Hermann) by individual rearings. *Jap. J. Exp. Med.*, **31**(5) : 333-339. <61-19>
168. Sasa, M., K. Matsumoto, A. Miura and U. Takeda (1961) : Saturated saline floatation method, a new and simple technique for the detection of grain mites in stored food products and drugs. *Jap. J. Exp. Med.*, **31**(5) : 341-349. <61-20>
169. 松本克彦(1962) : コナダニ類の繁殖条件の研究(II). 各種食品中に於けるケナガコナダニの繁殖. 衛生動物, **13**(1) : 16-19. <62-02>
170. 松本克彦(1962) : コナダニ類の繁殖条件の研究(III). 各種薬品中におけるケナガコナダニの繁殖. 衛生動物, **13**(2) : 105-111. <62-27>
171. Sasa, M. (1962) : On relationships between ecology of Trombiculid mites and epidemiology of Tsutsugamushi disease in Japan. *Proc. Ninth Pacific Sci. Congr.* 1957, **17** : 105-109. <62-28>
172. 田中寛, 千葉日美, 田中英文(1963) : コットンラット糸状虫ミクロフィラリアの中間宿主イエダニによる吸入量の定量的観察. 寄生虫学雑誌, **12**(3) : 191-195. <63-07>
173. 松本克彦(1963) : コナダニ類の繁殖条件の研究(IV). ケナガコナダニ, ムギコナダニ, サヤアシクダニの繁殖条件の比較. 衛生動物, **14**(2) : 82-88. <63-18>
174. 佐々学(1963) : 日本におけるダニ類の分布と病害に関する研究. 文部省研究報告集録(37年度). UDC 595, 42, p. 169-175. <63-28>
175. 松本克彦(1964) : コナダニ類の繁殖条件の研究(V). サトウダニとケナガコナダニの繁殖

- 条件の比較. 衛生動物, **15**(1) : 17-24. <64-04>
176. Sasa, M. (1964) : Sensory physiology of parasitic mites with special reference to stimulants and attractants of chiggers. *Proc. of First Intern. Congr. of Acarol., Fort Collins.*, 233-234. <64-08>
  177. Sasa, M. (1964) : Special problems of mites in stored food and drugs in Japan. *Proc. of First Intern. Congr. of Acarol.*, 390-391. <64-09>
  178. 松本克彦(1965) : コナダニ類の繁殖条件の研究(VI). 虫体の消化酵素について. 衛生動物, **16**(1) : 86-89. <65-31>
  179. 松本克彦(1965) : コナダニ類の繁殖条件の研究(VII). 飼料としての各種炭水化物と繁殖の関係. 衛生動物, **16**(2) : 118-122. <65-32>
  180. 佐々学(編)(1965) : ダニ類, 486pp., 東京大学出版会, 東京. <65-41>
  181. 神田鍊蔵, 田坂定晴(1966) : イエダニの各発育期にとりこまれた *Litomosoides carinii* 幼虫の発育に関する観察. 寄生虫学雑誌, **15**(2) : 155-160. <66-10>
  182. 和田芳武(1967) : 日本産コウモリに寄生するダニに関する研究 1. *Listrophoridae* (ズツキダニ科) の一新種. 衛生動物, **18**(1) : 1-3. <67-07>
  183. Sasa, M. (1967) : A historical review on the progress in studies of Tsutsugamushi in Japan. *Acta Medica et Biologica.*, **15** : Supplement, 1967. <67-18>
  184. Sasa, M., S. Oshima, K. Matsumoto and R. N. Sinha (1967) : On the identity of *Tyrophagus putrescentiae* (Schrank) and *T. dimidiatus* (Herrmann) (Acarina, Acaridae) in Japan. 衛生動物, **18** : 216-217. <67-24>
  185. 和田芳武, 佐々学(1967) : 日本産コウモリに寄生するダニについて. 衛生動物, **18** : 156. <67-33>
  186. 佐々学(1968) : 畳に発生する害虫について. 環境衛生, **15**(9) : 1-9. <68-17>
  187. Miyamoto, T., S. Oshima, K. Mizuno, M. Sasa and T. Ishizaki (1969) : Cross antigenicity among six species dust mites and house dust antigens. *J. Allergy*, **44**(4) : 228-238. <69-16>
  188. 佐々学(1969) : 屋内に発生するダニ. 三共薬報, No. 565 : 1-4. <69-30>
  189. Sasa, M., J. Miyamoto, S. Shinohara, H. Suzuki and A. Katsuhata (1970) : Studies on mass culture and isolation of *Dermatophagoides farinae* and some other mites associated with house dust and stored food. *Jap. J. Exp. Med.*, **40**(5) : 367-382. <70-03>
  190. Sasa, M., A. Shirasaka, Y. Wada, H. Suzuki, H. Tanaka and S. Noda, (1971) : The use of scanning electron microscopy in morphology and taxonomy of some mites and mosquitoes. *Jap. J. Exp. Med.*, **41**(2) : 135-158. <71-01>
  191. 佐々学, 野田省吾, 白坂昭子, 和田芳武, 鈴木博(1971) : 医動物学における走査電子顕微鏡 SEM の応用. 目でみる医学の進歩. Vol. I : 175-185, 医学書院. <71-28>
- なお, 以下の論文は, 直接表題に関連していないが, 文中に引用している.
192. 長田泰博(1958) : ヒトスジシマカ *Aedes albopictus* の炭酸ガスによる誘引現象について. 衛生動物, **9**(1) : 19-22. <58-01>
  193. Sasa, M., R. Shirasaka, H. Tanaka, A. Miura, H. Yamamoto and K. Katahira (1960) : Observation on the behavior of infective larvae of hookworms and related nematode parasites, with notes on the effect of carbon dioxide in the breath as the stimulant. *Jap. J. Exp. Med.*, **36**(6) : 433-447. <60-19>
  194. 武田植人, 栗原毅, 鈴木猛, 佐々学, 三浦昭子, 松本克彦, 田中英文(1962) : ドライアイスと蚊帳を用いた蚊の捕集方法. 衛生動物, **13**(1) : 31-35. <62-05>